



子育ての知恵袋

「ことば遊び ～はで始まることば遊び～①」

8月版では、ことばの音の数の遊びをご紹介しました。今回は、ことばの最初の音に注目する遊びをご紹介します。

例えば「はっぱ」の最初の音ははでですね。他にも、「はち、はさみ、はぶらし」など、はで始まることばはたくさんあります。ことば（単語）がいろいろな音の組み合わせでできていることを理解するきっかけにもなります。ご家族で、遊んでみてください。

「はで始まることばを言おう」

「はっぱ」を「あっぱ」と言うなど発音が違って、訂正はせずに、正しい音を子どもに聞かせましょう。はで始まることは分かっている、「自分の発音の誤りに気付いていない」、「はの音の獲得がまだ出来ていない」などが考えられるためです。ハ行の正しい発音が身につく目安は4歳代ですので、参考にしてください。

は以外にも、かにつくことば、さにつくことばなど、いろいろな音のことばを探してみましょう。それぞれの正しい発音が身につく目安は、5月版（No.2）をご参照ください。心配なことや気になることがあれば、「ことばの教室」までご相談ください。

～ことのはを考える～

子どものトラブルやけんか

人との関わりにより、社会性が育っていきますね。自分と相手（対人）を認識し、付き合い方を学んでいく過程にはトラブルがつきものです。言語表現が未熟な間は、行動が先になるのでおもちゃを取ったり、手が出たり、様々な事が起こります。その行動に「かして」「ちょうだい」「ありがとう」などその場に適した言葉を大人が添える事により、子ども達は対人コミュニケーションを学んでいくのです。ここでも同じ。「取ったらだめ」では学べないのです。

年長になり、言葉が豊富になっても語い数は大人の10分の1～20分の1程度で大きな開きがあります。大人が3万～5万語に対し2千～2千5百。数字でみると、うまく表現できなくても当然だと感じませんか。

この頃は、思いの違いでぶつかり合う事が増えてきます。自分はどうしたかった、だけど相手が違う事をした、言ってもやめてくれず自分は怒った、その結果相手が泣いた、まずい。。。そういったトラブルを解決するため、大人が双方に説明を求める事があります。まずいと思って黙っている事は良くない事でしょうか。



言語活動はとても重要です。しかし、『言葉とは裏腹』も大人は経験しているのでは？

コミュニケーションでの言語と非言語の割合は大人でも3：7。年長児では良くて2：8です。言葉以外から相手や状況を察する力が備わっているはずで、これが十分に育つ必要があります。「黙っていたら分からない」は、本来は違うのです。

大人でも、分が悪い時は黙ってその場をやり過ごす術を使ったりしますよね。

双方の子どもの気持ちを拾ってあげましょう。子どものトラブルは、善と悪でくれませんか。怒って泣かせた事は良くないが、理由が必ず存在するので否定しないであげてください。

幼児教育センターは、就学前から小学校教育へつなぎます
事と希望のもてる たからっこを
応援します！

宝塚市教育委員会 幼児教育センター
〒665-8665 宝塚市東洋町1-1
電話 0797-71-1141(市役所)
0797-77-2132(直通)
FAX 0797-71-1891
E-mail m-takarazuka0289@city.takarazuka.lg.jp

11月
ほめほめデー
TAKARAZUKA

★ 発達、就園・就学等の相談がありましたら、上記にご連絡ください。